

学位論文審査の要旨

		要 旨
学位申請者	四元 淳子 【論文博士】 (人間環境科学専攻 平成21年3月単位修得退学)	<p>無侵襲的出生前遺伝学的検査(Non-invasive Genetic Prenatal Testing: NIPT)は、妊娠7週頃から母体血漿中に増加してくる胎児由来のcell-free DNAを次世代シーケンサー(Next Generation Sequencer: NGS)などの機器を用いて解析する技術である。本邦においては、日本医学会内に設置された認定委員会で認定された施設でのみ臨床研究として、解析対象疾患も13, 18, 21番染色体トリソミーに限って、実施されている。</p> <p>本学位論文では、先行して実施されたNIPTの基礎的臨床研究の成果(第一章)とともに、NIPT導入前に行ったNIPT利用者となる妊婦と臨床遺伝専門職に対する意識調査の結果(第二章: Prenatal Diagnosisに第一著者として発表)や、高年妊娠を理由に羊水検査を受けて異常のなかった妊婦に行ったNIPTに関するミニレクチャーの介入効果を調査するフォーカス・グループ・インタビュー研究(第三章)を通じて、他の出生前検査に比べて非侵襲的であることから検査内容を十分に理解せず安易に受検しやすいなどのNIPTにおける問題点を明らかにするとともに、NIPTにおける遺伝カウンセリングが知識の理解の上でも自律的な態度の決定においても有用であることが示唆されている。これらの研究の成果は、NIPTの臨床研究を適切に実施するべく組織されたNIPTコンソーシアムにおける遺伝カウンセリングの資料にも採用され、NIPTに際して行われる質問紙調査(第四章)の基礎となった。この質問紙調査結果は共著者グループの一員として、本邦におけるNIPT臨床研究初年度の成果のひとつとして国際誌(Prenatal Diagnosis)に論文発表している。</p> <p>学位論文の審査は4回行われ、それぞれの審査委員会で出された審査員の質問や指摘に対して適切な修正が行われた。2015年2月4日に開催された公開論文発表会では、全ての質問に対して的確な回答がなされた。審査委員会は、臨床的遺伝学研究において遺伝カウンセリングが必須となっている状況において、本論文は遺伝医療の実践において重要な研究であり、かつ学術的にも高いレベルにあることを認め、本論文が博士論文として十分な内容であると評価した。</p> <p>以上のことより、本審査委員会は、本論文をお茶の水女子大学人間文化創成科学研究科の博士(学術)、Ph.D. in Genetic Counselingの学位授与に相応しいと判断した。</p>
論文題目	無侵襲的出生前遺伝学的検査 (Noninvasive Prenatal Genetic Testing: NIPT) における遺伝カウンセリングの役割	
審査委員	(主査) 教授 沼部博直	
	教授 太田裕治	
	教授 松浦悦子	
	教授 本田善一郎	
インターネット公表	准教授 近藤るみ	
	○ 学位論文の全文公表の可否 (再 ・ 否) ○ 「否」の場合の理由 ア. 当該論文に立体形状による表現を含む イ. 著作権や個人情報に係る制約がある ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている エ. 学術ジャーナルへ掲載されている 、 もしくは予定されている オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている ※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について	